

コーディネーターの手引き

2026年6月改訂版

藤沢市教育委員会 教育総務課

ご挨拶

ようこそ、地域学校協働活動へ！

この度は、コーディネーターをお引き受けいただき、ありがとうございます。

「地域の人材を知らないけれど大丈夫かな？」「何から始めたらいいんだろう？」
そんな不安を感じているかもしれません。でも、ご安心ください。
「子どもを思う気持ち」が、学校と子どもたちの大きな力になります。

この手引きでは、コーディネーターの役割や、地域学校協働活動についてご紹介しています。
みなさんの活動の一助になりますと幸いです。



藤沢市教育委員会では、 「地域とともにある学校づくり」 を進めています。

子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、未来を創る子どもたちの豊かな成長のためには、社会全体で子どもたちの成長を支えることが求められています。

「地域でどのような子どもたちを育てるのか」、「何を実現していくのか」という目標やビジョンを共有し、学校運営に地域の声を積極的に活かしながら、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めます。



1 コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)

(1) 「コミュニティ・スクール」とは？

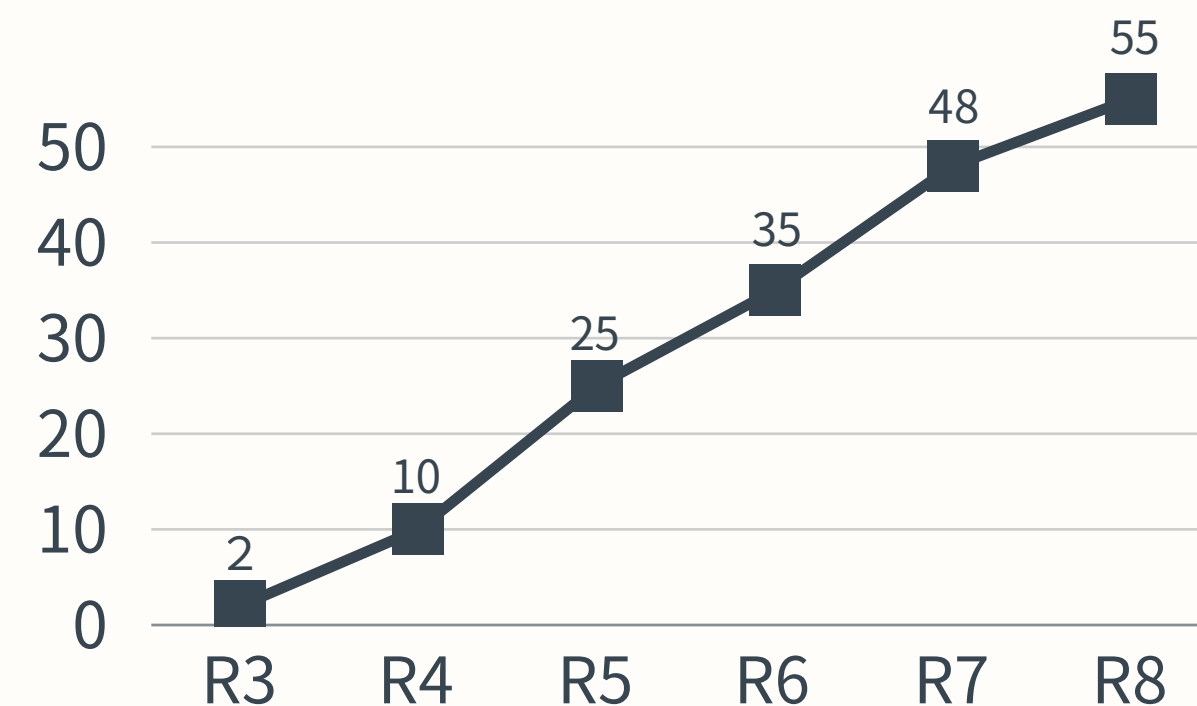
説明

- 学校運営協議会が設置されている学校の呼び方です。
- 地域の方、行政機関の職員、保護者、地域企業の方などが学校運営の「当事者」として参画する仕組みです。学校運営方針について校長から説明を受け、地域の意見を伝えるという大切な役割を担っています。
- 「学校運営協議会」を年に5回程度開催し、学校や児童生徒が抱える様々な課題について、地域全体で解決するために、話し合いを行います。

例) キャリア教育、不登校支援、登下校の安全、
防災教育、社会科の見学先候補、部活動...etc

設置状況

令和3年度から制度を開始し、令和8年度には市内の小・中・特別支援学校全てに学校運営協議会が設置されました。



2 地域学校協働活動

(1) 地域学校協働活動とは？

- 地域住民や保護者、関係機関などの参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える活動です。
- 地域が学校を支援するという一方向の関係ではなく、「学校が目指す姿」を共有したうえで、地域と学校がパートナーとして「連携・協働」し、地域の将来の創り手である子どもたちの育成を目指すものです。
- 学校運営協議会での熟議の結果、課題を解決するために、実際の取り組みである地域学校協働活動が企画されることがあります。



(2) 学校の課題（困りごと） や力を借りたいことの例

- 遠足や校外学習などをより安全に行うため、見守り役が欲しい
- 教室に入ることが難しい児童生徒が通う別室の見守りの手伝いをしてほしい
- 授業でミシンを扱う際、危ないので大人の目を増やしたい
- 昔遊びの講師を探したい
- 商店街見学の受け入れ先を探したい
- 懇談会中の子どもの見守りをお願いしたい
- プール授業の監視を手伝ってほしい
- 運動会で地域の踊りを取り入れたいので、講師の先生を探したい
- 総合の授業で地域の方に講話をしてほしい
- 防災訓練で地域の方に講話をしてほしい

※あくまで一例です。

(3) 地域学校協働活動の事例

01

授業サポート

パソコン授業補助



ミシン授業補助



02

商店街見学



03

地域との
防災協力



(4) 地域学校協働活動のよいところ

子どもにとっての魅力

- 学びや体験活動が充実する。
- 地域の創り手としての自覚が高まる。
- 地域への愛着が増す。

学校・教職員にとっての魅力

- 地域に開かれた信頼される学校づくりが進められる。
- 学校・家庭・地域が情報を共有するようになり、関係が深まる。
- 学校に多くの方が関わることにより、地域の力を活かした教育活動が充実する。
- 保護者や地域の協力により、教職員が子どもと向き合う時間を確保できる。

保護者にとっての魅力

- 地域の中で子どもたちが育てられているという安心感がある。
- 学校や地域に対する理解が深まり、家庭教育との相乗効果が生まれる。
- 保護者同士や地域の方々との人間関係が構築できる。

地域の方々にとっての魅力

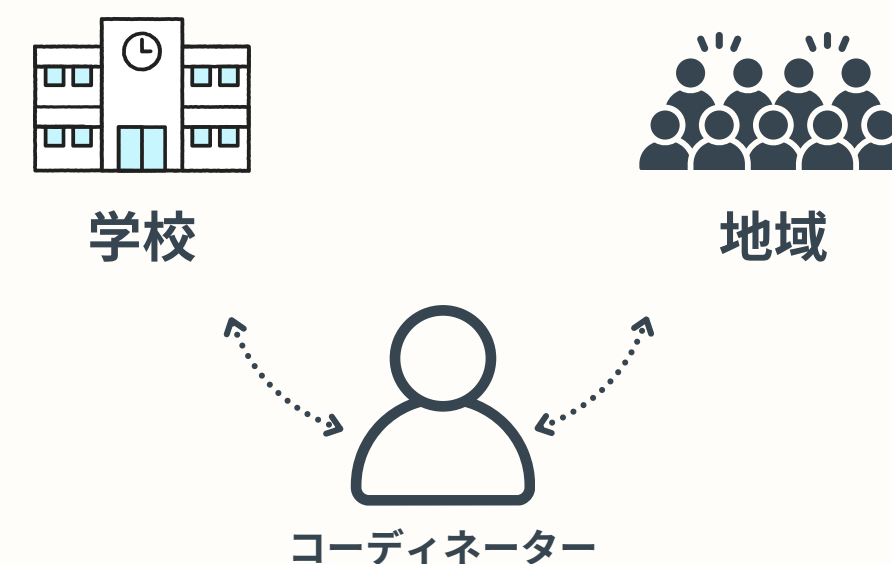
- 自身の経験を活かすことができる。
- 地域住民のボランティア志向が高まり、地域の活性化につながる。
- 地域の防犯、防災体制等の構築ができる。
- 地域で育った子どもたちが、将来の地域の担い手になる。



3 コーディネーターの役割

(1) コーディネーター制度

- 藤沢市では令和6年度からコーディネーター制度を導入しています。
- 地域の方々をよく知り、学校関係者とも円滑にコミュニケーションがとれる「コーディネーター」が、地域と学校との間を調整することで、地域と学校が円滑にパートナーとして協働することができています。
- ゲストティーチャーへの依頼や調整、授業サポートボランティア等の調整など、様々な場面で地域と学校を繋いでいただいています。



(2) 5つの役割

01

受け止める

学校の思い、地域住民の思いを
受け止める

02

伝える

学校のニーズに合った活動を
周知、紹介し、伝える

03

つなげる

学校のニーズに応えられるボランティア
を学校に紹介し、つなげる

04

支える

活動前後に学校の先生やボランティ
アからの相談を受けたり、アドバイ
スをして支える

05

振り返る

活動を振り返り、学校と地域の情報共
有により、活動を広げる

(3) 活動内容

- コーディネーターのみなさんには、毎月2時間程度を目安に、継続的に、次の活動を行っていただくこととなります。

01

学校のニーズの把握

02

学校のニーズと地域住民等とのマッチング

03

地域学校協働活動の実施に向けた調整

04

実施した活動についてのふりかえりや周知

05

学校の実情把握や地域の情報共有等を目的とした
学校管理職との面談

(4) 地域学校協働活動におけるコーディネーターの活動例

Step1

学校運営協議会

- 学校教育における課題について協議する。
- 地域学校協働活動が計画され、活動内容の方向性を決める。

【受け止める】



Step2

コーディネーター
(学校)

- コーディネーターが中心となって、学校と活動の詳細を協議、決定する。
(日時、場所、人数、活動内容等)

【伝える】



Step3

コーディネーター
(学校・市民センター)

- 決定した内容に基づいて、コーディネーターは協働活動サポーターや講師等への呼びかけ及び調整、学校は受け入れ準備、市民センターはコーディネーターのサポート等、各々の準備を進める。

【つなげる・支える】



Step4

協働活動サポーター・講師

- 当日の活動を実施する。

【支える】



Step5

コーディネーター
協働活動サポーター・講師

- 活動終了後は振り返りを実施し、活動の良かった点、改善点を洗い出す。

【振り返る】



Step6

学校運営協議会

- 協働活動の良かった点、改善点を報告共有し、今後の活動の在り方などを議論する。

【振り返る】

(5) 地域学校協働活動実施の流れ（事例①）

Step 1

学校運営協議会

- 課題：教室に入ることが困難な児童生徒に対する別室登校への支援について、教員が対応しているが、教室と別室の両方を万全にサポートするには、物理的な制約により限界に達している。
- 活動の方向性：様々な熟慮と議論の上（熟議）、当該児童生徒への配慮から、現役保護者ではなく、地域住民に見守りのサポートを依頼してみることとした。

【受け止める】



Step 2

コーディネーター （学校・市民センター）

- コーディネーター、市民センターから信頼できる方に声掛けを行い、協働活動サポーターが複数人集まった。【伝える】
- 学校に相談のうえ、活動開始を11月とし、通常午前1名、午後1名を教室に滞在できるよう予定を調整した。【つなげる】
- 実際に見守りに入られた方を含め、児童生徒の対応などについて学校と相談しながら活動を修正した。【支える】



Step 3

学校運営協議会

- 活動の報告：地域の方による見守りにより、子どもたちが多様な立場の大人と関わる経験ができた。また、教員にも時間が生まれ、教室と別室の両方で質の高い関わりを維持することができるようになった。
- 今後に向けて：地域の方との関わりの中で、当該教室に通う児童生徒たちのコミュニケーションスキルや社会性を高めることができるような取り組みも議論していくこととした。【振り返る】

(5) 地域学校協働活動実施の流れ（事例②）

Step 1

学校
(コーディネーター)

- 子どもたちに昔あそびの経験をさせたいが、講師となってくれる方が見つからない。
- 誰か知っている人がいないかコーディネーターに相談した。

【受け止める】



Step 2

コーディネーター
(学校・市民センター)

- コーディネーターから、市民センターに相談し、地域で活躍している昔あそびの講師の方を紹介された。【伝える】
- コーディネーターが連絡・調整し、学校の授業で実施することが決定した。
【つなげる・支える】
- 授業で昔あそびを実施し、子どもは様々な遊びの経験をする事ができた。
【支える】



Step 3

学校運営協議会

- 学校運営協議会で振り返りを行い、コーディネーターがどのような活動をしたことで実施に繋がったのかを確認した。

【振り返る】

4 事務

(1) 活動報告及び謝礼について

01

報告書の提出

- 毎月報告書をご提出いただきます。
- 活動月の翌月15日までに提出してください。

02

謝礼について

- 1 か月あたり3,000円（1 時間あたり1,500円）を基本とし、半期（4 月から 9 月まで及び1 0 月から翌年 3 月まで）ごとに18,000円を活動の謝礼としてお支払いします。18,000円に達しない場合でも、活動時間数に応じて謝礼をお支払いします。
- 半期のうちのコーディネーターとしての在籍月数が4 月以上の場合において、通算して3 月活動実績が無かった場合には、謝礼はお支払いできません。
- 年に2 回（1 0 月頃・翌年 4 月頃）お支払いをします。
- 詳細は次ページをご覧ください。

(1) 活動報告及び謝礼について

03

謝礼について (詳細)

	活動例①	活動例②	活動例③	活動例④
4月	3時間活動	3時間活動	1時間活動	0時間活動
5月	3時間活動	3時間活動	2時間活動	2時間活動
6月	4時間活動	4時間活動	4時間活動	1時間活動
7月	3時間活動	3時間活動	3時間活動	0時間活動
8月	6時間活動	0時間活動	0時間活動	0時間活動
9月	5時間活動	1時間活動	1時間活動	0時間活動
総活動時間	24時間	14時間	11時間	3時間
計算	1,500円×24時間 =36,000円	1,500円×14時間 =21,000円	1,500円×11時間 =16,500円	1,500円×3時間 =4,500円
支払い金額	18,000円（上限）	18,000円（上限）	16,500円	0円(3月活動なしのため)

(2) 活動報告書の作成について

別記様式（第3条関係）

コーディネーター活動実績報告書

年 月 日

藤沢市教育委員会

学校名 学校 コーディネーター名

令和 年 月分の地域学校協働活動推進事業に係る活動実績を次のとおり報告します。

[illegible]

(2) 活動報告書の作成について

01

報告書の記載例①

活動報告書には、「コーディネート」を意識した内容の記載をお願いします。

- 学校管理職面談
- 学校教員と〇〇授業の件で打ち合わせ
- 〇〇授業ボランティア調整（担当教員と内容、日程調整／お手伝い募集呼びかけ案内作成／お手伝いの方への趣旨説明／当日活動中の調整／参加していた保護者と情報交換）
- 〇〇講演会 講師依頼
- 社会科授業「商店街のお店訪問」 依頼先調整
- 〇〇地区コーディネーターと情報交換
- コーディネーター交流会へ出席し、他地区コーディネーターと情報交換
- 学校運営協議会会議録作成

(2) 活動報告書の作成について

01

報告書の記載例②

様々な地域学校協働にご協力いただくなかでも、ぜひコーディネーター視点で
ご活動いただき、報告書へご記入いただきたいと思います。

△	◎
〇〇授業サポート	〇〇授業サポート活動が円滑に行えるように 現場で調整、課題確認
運動会参加	運動会を視察し、地域が協力できそうなこと を確認
情報交換	〇〇コーディネーターと防災についての情 報交換 〇〇地区民生委員と登下校の状況について 情報交換